

ボーリング柱状図

調 査 名 都市基盤周船寺川（梶ヶ本橋）地質調査業務委託

ボーリングNo.								
----------	--	--	--	--	--	--	--	--

事業・工事名

シート No.

ボーリング名	No.2		調査位置		福岡市西区周船寺3丁目、田尻2丁目				北緯		33°34'32.44"	
発注機関	福岡市道路下水道局建設部河川課				調査期間		平成25年2月22日～25年2月27日		東経		130°14'57.40"	
調査業者名	㈱西日本ソイルコンサルタント 電話(092-612-5970)		管理技術者		清崎 聖一		担当技術者		田島 将史		ボーリング責任者 森永 泰生	
孔口標高	H=7.42m	角			方			使用機種	YBM-05		ハンマー落下用具	
総掘進長	19.00m	度	0°		向	0°		エンジン	NFAD-8		ポンプ	
											トンビ	
											SP-30	

標尺	標高	層厚	深度	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記号	孔内水位(m)／測定月日	標準貫入試験					原位置試験		試料採取		室内試験(掘進)		
											深 度	10cmごとの 打撃回数			打撃回数／貫入量 (cm)	N 値	深 度	試験名 および結果	深 度		試験 番号	採取 方法
												0 10	10 20	20 30								
(m)	(m)	(m)	(m)								(m)			(m)								
1					盛土・礫混りシルト質砂	暗褐色			不均質な土砂からなり、細砂と粗砂が混在し、全体にシルト分が多く混じる。 φ10mm前後の角礫が点在する。 深度1m付近以深では粘土分が多く混じる。	2/22 2.25	1.15	1	2	2	5 30	5						
2	4.62	2.80	2.80								1.45	1	2	4	7 30	7						
3	3.92	0.70	3.50		シルト質砂	灰			中～粗粒砂を主体とする。 シルトをブロック状に混入する。		2.45	6	7	7	20 30	20						
4					礫混り粗砂	淡灰			粒径不均一。 φ数mmの石英細礫を上部ほど多く含む。 φ10mm以下の亜円礫が点在する。		3.15											
5	2.52	1.40	4.90								3.45	3	2	1	6 30	6						
6					シルト混り砂礫	灰			φ10～20mm程度の亜角礫～亜円礫を主体とする。 混入礫は花崗岩類や砂岩が多く、いずれも硬質である。 基質はシルト混り砂。		4.15											
7	0.52	2.00	6.90								4.45	3	4	3	10 30	10						
8	-0.38	0.90	7.80		砂混り粘土	黄褐～淡白灰			比較的均質な粘土を主体とし、上部と下部には砂分が多く混じる。 含水量少量で凝固する。		5.15	2	3	2	7 30	7						
9	-1.18	0.80	8.60		シルト混り砂	淡緑灰			中～粗粒砂主体。 上部ほどシルト分が多く混じる。		5.45	5	3	4	12 30	12						
10	-2.28	1.10	9.70		砂混り粘土	暗茶灰			概ね均質な粘土だが、下部では砂分がやや多く混じる。 含水量が少なく、粘性が強い。		6.15	2	3	5	10 30	10						
11	-3.48	1.20	10.90		シルト質砂	黄褐			細～中粒砂主体で、全体にシルト分を多量に含む。 φ10mm前後の亜角礫を少量混入する。		6.45	9	10	12	31 30	31						
12	-4.18	0.70	11.60		礫混りシルト質砂	暗褐色			細～中粒砂主体でシルト分が多く混じる。最大礫径φ=50mm。		7.15	36	14		50 12	125						
13	-4.58	0.40	12.00		砂混り粘土	黄灰褐			含水量が少なく、固結する。		7.45	11	13	13	37 30	37						
14					礫混りシルト質砂	黄褐～茶褐			全体的に褐色酸化した砂質土層。 細～中粒砂を主体とし、全体にシルト分を多量に混入する。 φ10～20mm程度の亜角礫～亜円礫が多く混じる。 混入礫はほとんどが花崗岩類である。		8.15	18	24	8	50 22	68						
15	-7.38	2.80	14.80								8.45	20	19	11	50 30	50						
16					マサ状風化花崗岩	灰褐			花崗閃緑岩のマサ状風化帯。 風化による軟質化が顕著であり、全体的に土砂化している。 コアは土柱状で採取されるが、指圧で容易に崩れ、細礫混りシルト質砂状になる。 造岩鉱物は概ね土砂化しており、石英などの比較的硬質な鉱物はφ数mmの細礫状で残存する。 全体的に岩組織は明瞭である。		8.85	12	21	17	50 22	68						
17											9.15	24	26	7	50 17	88						
18											9.45	23	27	7	50 17	88						
19	-11.58	4.20	19.00								9.85	20	30	8	50 18	83						
20											10.15	32	18 4		50 14	107						

- ・本資料は、工事等により現況と整合しない場合があります。現在の位置関係や地質状況などを特定するものではありません。
- ・本資料は、参考データとして利用し、現在の地質状況は、再度ボーリングを行う等して確認をお願いします。